

7月定例記者会見の概要

1 日時 令和8年7月7日（火）9時30分～10時10分

2 場所 本庁舎3階 第一会議室

3 出席者 <報道機関>

- ① 河北新報社 南相馬支局（南相馬記者クラブ会員）
- ② 読売新聞社 南相馬通信部（南相馬記者クラブ会員）
- ③ 福島民友新聞社 相双支社（南相馬記者クラブ会員）
- ④ 福島民報社 南相馬支社（南相馬記者クラブ会員）

計 4 社

< 市側 >

- ・市長・総務部長
(テレビ会議)
- ・副市長・教育長・小高区役所長・鹿島区役所長
- ・復興企画部長・市民生活部長・健康福祉部長
- ・こども未来部長・商工観光部長・商工観光部企業立地担当理事
- ・農林水産部長・建設部長・総合病院事務部長
- ・総合病院経営企画担当部長・教育委員会事務局長

計 17 人

(司会進行) 秘書課長

(会議記録) 秘書課広報広聴係

【市政報告】

まずは、前回6月4日の記者会見から最近までの出来事についてご報告いたしますが、その前に、間もなく小高区の避難指示解除から10年という節目を迎えることについて申し上げたいと思います。

今月12日をもちまして、小高区は、原発事故に伴う避難指示の解除から丸10年という大きな節目を迎えます。この10年間、本市は震災と原発事故によって加速した人口減少や出生数の低下といった厳しい現実と直面し、その困難に立ち向かってまいりました。

この間、小高区においては、特に住民の皆様が安心して暮らせるよう環境整備に注力してまいりました。

例えば、公設民営の商業施設「小高ストア」、多世代交流の拠点である「小高交流センター」、子どもたちの笑顔があふれる「NIKOパーク」、そして医療の要となる「小高診療所」の開設など、一步一步大切に歩みを進めてまいりました。また、7月1日には、小高区における新たな学びと交流の拠点として期待される、「福島大学小高まちなかブランチ」が開設されるなど、さらなる復興への動きが出てきております。

ここまで支えてくださったすべての皆様に、心より深く感謝申し上げます。

避難指示解除後、少しずつ帰還が進み、市民の方々や新しい移住者の皆様が小高に入ってきてくださる姿は大きな希望となりました。

しかしながら、現役世代の帰還や定住は道半ばだと思っています。市としては現在、特に小高区での生業の創出に力を入れています。安心して働き、暮らし続ける基盤を固めるため、農業基盤の整備や、産業団地整備を推進しております。

令和8年度以降は、川房地区複合型園芸施設や小高復興産業団地「フロンティアパーク」の整備を加速させていきます。さらに、旧小高商業高校跡地の利活用にも着手し、小高区が活力ある地域として発展し続ける未来を、皆様と共に確かなものにしてまいります。

小高区を次の世代へ自信を持って引き継ぐため、残された課題に一つ一つ全力で向き合っておりまいます。市民の皆様には、今後とも変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

それでは、市政報告に移らせていただきます。

まず、市民植樹祭についてです。

6月7日に、鹿島区烏崎地内で第14回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭を開催し、1万2千本の苗木を新たに植樹しました。参加された約1,200人の皆様に感謝申し上げます。

市では、複数の苗木を混ぜて植樹し、原生林に近い森にする「混植」方式を採用しております。前身である旧原町市時代から続けてきた市民植樹祭から数えると、今回で30回目を迎え、累計で4万1600人の方にご協力いただき、約11ヘクタール、30万本を植樹しています。

東日本大震災で亡くなられた方々を追悼し、災害の教訓を伝えること、さらには津波から命を守る防災林を目指して、今後も植樹に取り組んでまいります。

次に、市議会定例会についてです。

6月29日に第2回市議会定例会が閉会しました。

この定例会では、補正予算など議案12件について、全て原案どおり可決・承認・同意されました。

次に、「はぐプロジェクト」についてです。

本市を含む県内10市で、新たに「はぐプロジェクト」の取り組みを開始いたしました。このプロジェクトは、企業の経営層・管理職の意識や行動の変容を通じて、男性の育児休業取得や仕事と子育ての両立を支える職場風土づくりを進めることを目的としています。東京大学と連携し、経営者や管理職の皆様を対象に、実際の保育現場での育児体験などを通じて、子育て支援型マネジメントの重要性や、具体的な実践方法を学んでいただく内容となっています。

6月30日には、参加10市に加え、東京大学やこども家庭庁をはじめとする関係者が福島市役所に集い、キックオフセレモニーを開催しました。今後も各市と連携を深めながら、子育てしやすいまちづくりに全力で取り組んでまいります。

次に、「社会を明るくする運動」についてです。

7月は、法務省が定めた「社会を明るくする運動」の強調月間です。この運動は、犯罪・非行の防止と、罪を犯した人たちの更生について理解を深め、犯罪や非行のない明るい地域社会を築くための全国的な運動です。

7月1日には、相馬地区保護司会や更生保護女性会など関係者の皆様が集まって統一啓発集会と街頭啓発活動が行われ、わたしも出席してまいりました。

次に、人権に関する標語とミニのぼり旗デザイン画の表彰式についてです。

市民の皆様の人権への関心を持っていただき、お互いの人権を尊重し合う意識の醸成を目的に、小中学生から人権に関する標語、ミニのぼり旗のデザイン画を募集しました。小中学生497人にご応募いただき、7月2日に入賞者12人への表彰式を執り行いました。

標語とミニのぼり旗は7月2日から7月9日まで、市民課ホールに展示する予定です。

続いて今後の主な話題について触れたいと思います。

はじめに、少年の主張についてです。

中学生が、将来の夢や社会への提言などを発表する「少年の主張 南相馬市大会」を7月16日にサンライフ南相馬で開催します。

当日は中学生の司会者2名による進行で、市内の中学校6校から各2名、計12名が発表する予定です。最優秀賞となった生徒は県大会を目指します。

どなたでも聴講いただけますので、ぜひ会場までお越しください。

次に、ペンドルトン市派遣団についてです。

本市は、アメリカ合衆国オレゴン州ペンドルトン市と国際姉妹都市となっており、交流を通じて友好・親睦を図るなど、次代を担う人材育成に取り組んでおります。27年目を迎える今年度もペンドルトン市との相互派遣交流を実施する予定です。

7月15日から28日までは、ペンドルトン市の学生6名と引率者1名が本市などを訪問し、7月16日にはこの市役所を訪問していただきます。その後は北泉海岸でのサーフィン体験や、福島ロボットテストフィールド、博物館などを見学いただく予定です。

また、本市からペンドルトン市へ向かう派遣団の高校生6名については、7月31日に出発式を行い、8月4日に出発、18日まで現地で視察、交流等を行う予定です。

次に、北泉海水浴場の海開きについてです。

7月18日から8月23日までの37日間、北泉海水浴場を開設いたします。昨年は2万4,409人にご利用いただきました。

また、今年も様々なイベントが開催される予定です。7月18日の北泉オープニングイベントを皮切りとして、北泉海岸や北泉総合公園を中心に、各種イベントな

どの開催のほか、南相馬キッチンカー協会により、土日祝日、お盆期間などにはキッチンカーも出店します。

8月8日には、原町商工会議所青年部主催の「北泉サマーフェスティバル 2026」も開催されます。

今年も夏の思い出作りにぜひ北泉海水浴場をご利用ください。

次に、市制施行20周年・東日本大震災15年式典についてです。

令和8年は、南相馬市誕生から20年、東日本大震災と原子力災害から15年という節目が重なる年です。これまでの歩みを振り返り、未来への希望を次世代へつなげるため、7月25日にゆめはつとにおいて、市制施行20周年・東日本大震災15年式典を開催いたします。

式典では、合併にご尽力いただいた方々への感謝状贈呈、本市の歩みを振り返る動画放映をはじめ、福島県立医科大学の坪倉主任教授によるご講演、原町高等学校吹奏楽部の皆様による記念演奏などを予定しております。多くの市民の皆様のご参加をお待ちしております。

【質疑応答】

質問1：

帰還困難区域の除染作業の進捗状況を教えてください。

回答1：市長

該当する家屋1軒の解体工事は4月に着手しております。また、除染作業については6月から開始しており、対象面積は約4ヘクタールです。現在は準備作業等を行っている段階です。完了時期については、現時点で明言できる状況ではございません。

質問2：

小高区の空き家・空き地問題に対し、市としてどう取り組んでいますか。

回答2：市長

空き家・空き地問題に関しては小高区だけでなく、市全体の問題として捉えています。少子高齢化と震災の影響により深刻な問題と認識しています。震災直後は、アパート等に避難する市民や復興作業員等の需要で不足気味でしたが、現在は全国平均程度の空き家が目立つようになってきました。ただ、利用者の希望によっては、空きがあるものや物件がないものがあるようです。

このように住宅ニーズは多岐にわたるため、市では4月に「住宅政策室」を新設しました。今後は旧小高商業高校跡地の利活用や、仕事づくりとセットにしたまちづくり計画を推進し、小高区の居住人口を増やす対策を講じてまいります。

質問3：

震災前に比べ、現役世代はどの程度減っていますか。

回答3：市長

市全体の高齢化率は、震災前の30%から現在は50%へと増加しています。これに伴い、現役世代は約15%強、子供は5%強減少しています。

質問 4 :

小高区の人口規模を教えてください。

回答 4 : 市長

小高区の人口については、震災前の約1万2,800人に対し、現在の居住人口は約3,800人となっています。

以上